カーネーション（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
萎凋細菌病	植付前	1. 挿芽は健全株からとる。 2. 土壌消毒する（土壌消毒の項参照）。	
	生育期	・発病株はただちに抜きとる。	
立枯細菌病	植付前	・挿芽は健全株からとる。	
	生育期	・発病株はただちに抜きとる。	
さび病	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 バシタック水和剤75 500～1000倍	
立枯病	植付前	1. 挿芽は健全株からとる。 2. 次の薬剤いずれかで土壌消毒する。 ガスタード微粒剤＊ バスアミド微粒剤＊ いずれも20～30kg/10a	＊花き類・観葉植物での登録
	定植時および活着後	・次の薬剤を土壌灌注する。 タチガレン液剤　500倍　3ℓ/㎡	
斑点病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000（FL）＊　1000倍 ポリオキシンＡＬ乳剤 500～1000倍	＊花き類・観葉植物での登録
うどんこ病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 パンチョＴＦ顆粒水和剤●＊ 2000倍 ポリオキシンＡＬ水溶剤＊ 2500倍 モレスタン水和剤△ 2000～3000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 △モレスタンは薬害を生じるおそれがあるので注意する。 ＊花き類・観葉植物での登録
アザミウマ類	生育期	・発生初期に次の薬剤を散布する。 スミチオン乳剤　1000倍	高温、乾燥期に発生が多い。
アブラムシ類	生育期	1. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤　2000倍 アディオンフロアブル　1500倍 ダントツ粒剤（株元散布）＊ 6kg/10a 2. 施設栽培ではくん煙剤を使用する（くん煙剤の項参照）。	アブラムシ類はウイルス病を媒介するので、早めに防除する。 ＊花き類・観葉植物での登録

カーネーション（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
シロイチモジヨトウ	生育期	**1. 施設の側面や妻面には防虫ネットを張り、害虫の侵入を防ぐ。** 2. 次の薬剤を散布する。 ロムダンフロアブル＊　1000倍	＊花き類・観葉植物での登録
オオタバコガ	生育期	・発生初期に次の薬剤を散布する。 アファーム乳剤＊　1000倍	若齢幼虫のうちに防除する。 ＊花き類・観葉植物での登録
ハダニ類	生育期	1. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 サンマイトフロアブル　1000倍 ダニトロンフロアブル＊　1000～2000倍 テルスターフロアブル　4000倍 ピラニカＥＷ　1000～2000倍 モレスタン水和剤　1000倍 2. 施設栽培ではくん煙剤（くん煙剤の項参照）および次の薬剤を使用する。 ペンタック水和剤　1000～1500倍	ハダニ類は薬剤抵抗性がつきやすいので同一薬剤の連用をさけ、ローテーション散布を行う。 発生初期に防除を徹底して行う。葉裏によくかけるようにする。 ＊花き類・観葉植物での登録